



伊都消防署便り

平成 27 年 3 月 1 日

編集と発

行

伊 都 消 防 組

合

伊 都 郡 かつらぎ 町

妙 寺 126-12

第 3 9 号

安全・确实・迅速・愛!



高野口こども園 防火パレード

平成 2 6 年度 全国統一防火標語



もういいかい 火を消すまでは まあだだ



消したよね みんなでかくにん 火のしまつ



平成 2 6 年度伊都消防組合防火標語 最優秀賞 妙寺小学校 木村 文香

消防長あいさつ



消 防 長
益 田 光 則

伊都消防組合の業務開始以来、地域住民の皆様には消防行政の推進に深い御理解と御協力を賜っており、感謝の意をこめながら厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は当管内においては大きな災害の発生はなく、近年では平穏な1年であったように思います。しかし、日本の各地では信じられないような災害が発生しています。広島市で多数の死傷者を出した豪雨による土砂災害、火山災害で戦後最悪の死者を出した御嶽山の噴火等、毎年といつていいほど特異な災害で尊い人命、貴重な財産が奪われています。

伊都消防組合の管内においても自然の猛威はいつ牙をむいて襲いかかってくるかも知れません。我々は、この地域で発生することが予想される災害に対して、各地の災害での活動内容を教訓にしながら活動対策を講じておくことが重要です。

その最たるものが2050年まで

には必ず発生すると言われている南海トラフ巨大地震に対する備えです。確かにこの地域は津波の心配はありません。しかし、想定されている震度6弱・6強の揺れは多数の家屋を倒壊させ、死傷者を出すとともに、時間帯によっては火災を多発させる事が予想されます。また、土砂災害を引き起こす可能性もあります。

伊都消防組合としては構成市町や消防団、関係機関との連携を密にするとともに、震災対策等の見直しや訓練を実施し、対策を検討しております。しかし、管内全域が被災することの災害に対しては、伊都消防組合の消防力で対処しきれないのは明らかです。

地震災害という大規模災害に対しては自主防災組織を中心とした地域住民の皆様の救助活動や消火活動が、この地域を守る最大の力となります。今後も訓練や勉強会を実施していただき、巨大地震に対しての備えをより強くして頂きますようお願いいたします。

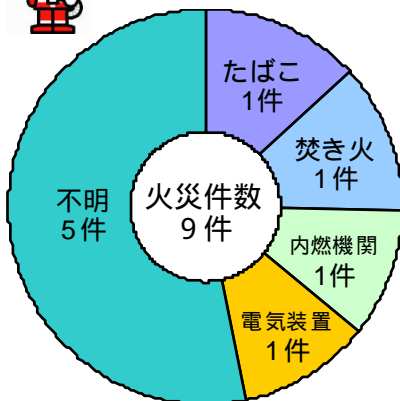
最後になりましたが、皆様の消防行政に対する一層の御支援、御協力をお願い申し上げますとともに、御健勝と御多幸を御祈念申し上げます。挨拶とさせていただきます。

消防白書(平成26年)

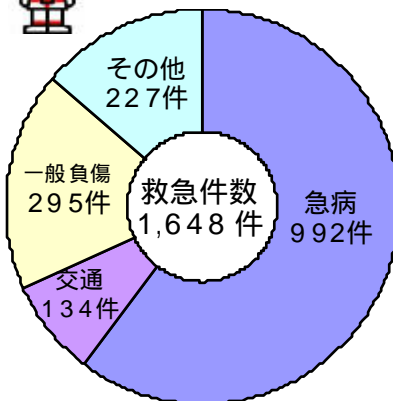
I save the life to be saved by all means
助 か る 命 は 必 ず 助 け る



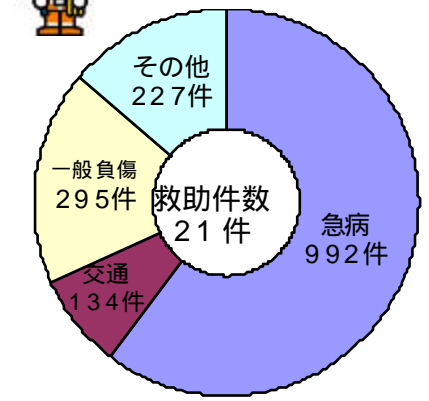
火 災



救 急



救 助



市町別 災害別	かつらぎ町	橋本市高野口町	九度山町	管 外	合 計
火 災	6 件	1 件	2 件		9 件
救 急	8 1 3 件	6 0 5 件	2 2 6 件	4 件	1 , 6 4 8 件
救 助	1 4 件	2 件	5 件		2 1 件

『通信指令室からのお知らせ』

みなさんは、緊急時どの手段で通報すると、最も早く消防車や救急車が到着するかご存じですか？

通報手段は大きく分けて4つで、構成率は昨年の統計です。

固定電話から局番なしの「1119」	47%
携帯電話から局番なしの「1119」	17%
固定電話から「22 0119」	35%
若しくは携帯電話から「0736 22 0119」	1%
消防署へ駆け付け通報及びその他	0%

消防署の中で、消防車や救急車の出動を指示する部署は「通信指令室」と言います。通信指令室には、過去の通報データ、住所録、電話番号等から緊急通報場所を瞬時に自動解析し地図上に反映させる通信指令システム（指令台）を設置しています。

局番なしの「1119」は通信指令システムに直接つながり処理されます。

「22 0119」は伊都消防組合消防本部につながり、早く出動してくれると思われがちですが、この番号は消防業務用一般回線であり、通信指令システムを経由しないだけではなく、通信指令室以外の部署で対応することもあります。緊急通報を「22 0119」で他の部署で受信した場合は、指令室に転送し、通信指令システムを手動操作し場所を特定します。

よって、が最も早く到着します。固定電話が手元にない場合は、を選択してください。は通信指令システムに直接つながらないので時間を要します。

さらに、救急の場合は、通信指令員から「口頭指導」といって、必要な応急手当の方法を通報していただいた方に電話でお伝えします。

口頭指導も受けられ到着も早い最も有効な手段は、固定電話の中でも子機を使った通報です。子機を使っていたら、急病人や負傷者の状況も通信指令員が把握でき、現場に向かってる救急隊に伝えることで、到着後の活動もスムーズに行えます。

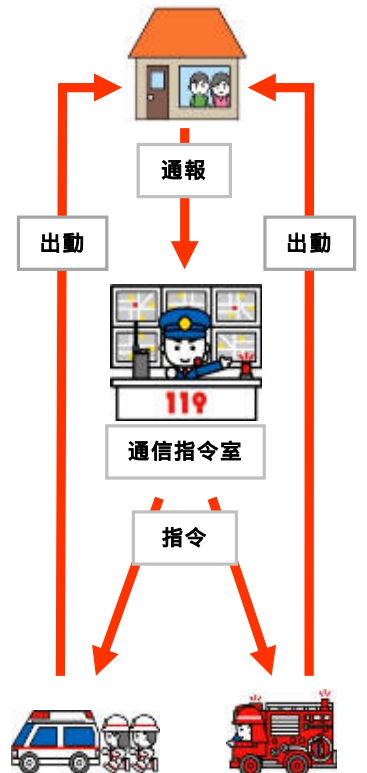
通信指令室では、必要な情報にあわせて順を追ってお聞きしますので、それに合わせてお答えいただけますよう、御協力よろしく願います。

感謝状贈呈

「勇敢な人命救助」を称え

岩出市 市道 明宏 様
吹田市 井出 将博 様

平成二十六年五月三日、かつらぎ町の川万葉の里公園南側の紀の川において発生した水難事故に際し、迅速に一一九番通報を行い、緊迫する危険に直面しながらもその身を顧みず、自ら入水して女兒を救助してくれました。二人の勇敢な行動と功績を称え、伊都消防組合消防本部消防長感謝状を贈呈しました。



平成26年度 防火ポスター入賞作品

応其



谷本 朋香 (応其) 大原 あすか (応其)

信太



橋詰 侑茄 (信太)

高野口



戸田 彩花 (高野口) 中西 陽歩 (高野口)

九度山



尾上 兼紳 (九度山)



特選・優秀作品



少年期から防火に対する知識を身につけ、家庭及び学校生活において火災予防の徹底を図ることを目的として、管内の各小学校4年生を対象に防火ポスター、5年生を対象に防火標語を募集したところ、多数の応募をいただきました。これら応募作品を、厳正に審査したところ次の方々が入賞されました。

大谷



井上 真斗 (大谷)



石井 朱侑 (九度山) 土居 稔季 (九度山)



北山 紗衣 (大谷)



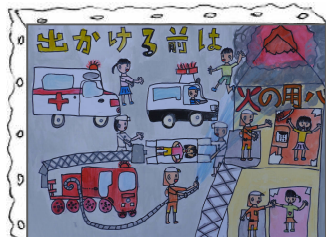
山根 彩光 (妙寺)



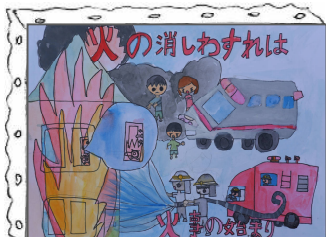
山本 和佳 (妙寺)



妙寺



奥出 侑生 (妙寺)



井本 千晴 (妙寺)



梁瀬



山本 一濤 (梁瀬)

平成26年度 防火標語入賞作品

【最優秀賞】

消したよね みんなでかくにん 火のしまつ

妙寺小 木村 文香

【優秀賞】

つけたなら 最後は自分で 火のしまつ
消えただろっ 思い込まずに すぐ確認
慣れた火に 新たな注意 火災ゼロ
火の用心 火事は心の ゆるみから
火災ゼロ それがみんなの 合言葉

妙寺小 山下 志紀
笠田小 小西 亮玖
笠田小 小西 康太郎
大谷小 宮崎 琢巳
九度山小 西平 弥々

【佳作】

つけた火は 消したか消えたか かくにんを
消したかな その目その手で あとしまつ
消したかな 確にんしよう 何度でも
なれたとき 一番あぶない 火災事故
一年間 家族みんなで 火の用心
やめようよ タバコのポイすて 火事のもと
わすれるな いつも心に 火の用心
最後まで 火のあとしまつ 大切に
気を抜くな 幸せうばう 火の怖さ
わすれない 火をつけたこと 最後まで
ちよっとだけ 少しの油断が 火事のもと
思い出が 消えないように 火のしまつ
みんなで守ろう ぼくらの町は 火災ゼロ
知らせて守る 家族の味方 火災けい報器
ねる前出る前 カギとっしよに 火の確認
確かめよう その火は本当に 消えたかな
ゆだんした その一秒がいのちとり
火を消した？ みんなを守る ことばかけ
気をつけよう その火1つが 家燃やす
火のしまつ 消したつもりが 火事のもと
今しよう 忘れないうち 火のしまつ
ちよっとした 心のすきが 大火事に

妙寺小 竹本 理乃
妙寺小 角濱 柚希
妙寺小 齊藤 沙紀
妙寺小 中谷 愛実
妙寺小 堂本 正明
笠田小 田口 京季
笠田小 岡本 雄輝
笠田小 小西 満貴
笠田小 近藤 勇輝
大谷小 中田 翔
大谷小 浅井 瑞生
大谷小 宇野 心
高野口小 村上 龍牙
高野口小 山本 陽介
高野口小 西野 秀晃
高野口小 辻脇 大祐
高野口小 森田 汐音
高野口小 塩山 奈后美
信其小 中谷 優太
信其小 平田 咲彩
九度山小 青木 美花
九度山小 平野 遼介



意見発表表

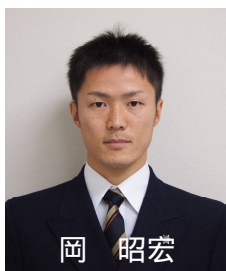
平成26年10月に開催された、和歌山県消防職員意見発表会に伊都消防組合消防本部の代表として、岡昭宏消防士が出席しました。

発表では、「**防災を教育に**」という題名で、東日本大震災や広島同時多発土砂災害を機に、人前で話す事が苦手な自分が、「**救命**」というミッション遂行のため、子どもたちの前に立って話す事を決意。

被災地域の先頭に立って行動できる人材を育成できるよう訴え、優秀賞を受賞しました。

また、平成26年4月には、辻本雅洋消防士が和歌山県代表(前年最優秀賞)として、東近畿大会に出場しました。

発表では、「**光という名の希望**」という題名で、ホタルの里である、かつらぎ町天野地区にちなんで「チームひかり」を発足し、災害に強い地域をつくることにより里は輝くと訴えかけ、入賞しました。



岡 昭宏



辻本 雅洋

新人消防士
決意

高橋 成寿

事もありましたが、38期生のみんなに助けられて、卒業することができ、仲間とのチームワークの大切さを学ぶことができました。

10月1日から、署第1班の警防係に配属され、毎日先輩方と行う訓練は、消防学校で学んだ事とは違い現場に応じたやり方で、戸惑い失敗することもありますが、その都度、先輩方から指導してもらつことで毎回訓練するたび勉強になります。

これからの消防人生でもっと経験を積み重ね、少しでも先輩方に追いつけるように努力を続けて、いつかは追い越せるよう頑張ります。訓練の事だけでなく消防生活の流れを早くつかみ、率先して何事もできるようになり、先輩方に迷惑をかけないようにしたいです。

これからは、地域の人々の生命や財産を守り、信頼される消防士になりたいです。そのためには、地域のことをもっと知り何事にも向上心を持ち、積極的に取り組んでいきたいと思えます。



松尾 隆矢

6か月間の長く厳しい初任科教育を終え、消防の基礎から応用まで多くの知識や技術を学びました。10月から伊都消防署で消防隊員として勤務し、毎日先輩方に新しい技術を教えてもらい日々成長しています。

しかし、自分はまだまだ未熟で、訓練で迷惑をかける事が多く、時には厳しく指導を受けることが多々あります。現場経験がない私にとって、やることすべてが初めての経験です。戸惑いを感じる時もありますが、先輩からの確かなアドバイスをもらい解決することができます。まだまだ覚えなければならぬ事がたくさんあると実感しています。

また、消防署の中では新人として見られていますが、現場では住民の方々は何十年も働いている先輩方と同じ消防隊員として映ります。自分に与えられた責任と使命を果たすためには、先輩に少しでも近づき、いつかは追い越せるように日々努力をして進歩していく事で、住民の方々の役に立てると思えます。

これからどんなに辛い事があっても、挫けず努力し続け立派な消防士になり、住民の方が119番通報したから安心だと言ってもらえる消防署の一員になれるようにがんばります。



12 人目の救急救命士誕生



伊都消防組合
消防署第3班
救急救命士
藤田 勝彦

「救命の架け橋」

私は、平成25年8月から7か月間、京都市救急教育訓練センターで行われた救急救命士養成課程を修了、翌年3月9日の国家試験に合格、救急救命士の資格を取得しました。

救急救命士の処置は年々拡大され、現在では、ショック時の輸液や低血糖時のブドウ糖投与など、心肺停止前にも救急救命処置が実施できるようになりました。

高齢化社会が進むと同時に、救急の需要も高まり、また、流れ行く時代の変化と共に救急現場も複雑、かつ、高度化が強まっております。より一層知識や技術のレベルアップを図り、救急隊として、救急救命士として、住民の方々にとって安心され信頼される救急救命士になりたいと思います。

救急救命士は、一人では何もできません

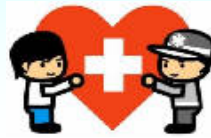
普通救命講習のご案内

当消防本部では、毎年、9月の救急週間中に普通救命講習を開催しています。

この講習では、心肺蘇生法や AED の取扱い並びに応急手当の方法などを受講していただき、受講修了者には修了証が交付されます。本年も、開催を予定しておりますので、皆様の参加をお待ちしております。

問い合わせ先 伊都消防組合 警防課 22 0119 まで

Do our Best to Save



ん。隊員のサポートがあつてこそ救命処置ができるのです。救急救命士に合格できたのも周りのサポートがあり、支えがあつたからだと感謝しています。いつまでもその気持ち忘れず、救命の架け橋となれるよう、救急業務に邁進していきます。

RESCUE



【はしご登はん】
東 大智
南方 邦宏

【ロープブリッジ渡過】
松浦 巧(県1位)
岡 昭宏

【ロープ応用登はん】
門 誠・山本 健之組
辻本 雅洋・林 晃史 組



消防救助技術大会

日夜あらゆる災害から地域住民の命を守るため、隊員の知識や技術を相互交換することにより、更なる高度な救助技術の錬磨、強靱な体力と精神力を養成することなどを目的として、第43回和歌山県消防救助技術大会が、和歌山市北消防署屋外訓練場にて開催され、県下17消防本部193名の隊員が参加しました。

当消防本部からは、8名が大会に出場し、ロープブリッジ渡過では県で1位となるなど、各種目で優秀な成績を収めました。

消防ポンプ操法大会

平成26年7月27日に、第25回和歌山県消防ポンプ操法大会が田辺市で開催されました。

かつらぎ町消防団、第2分団及び第7分団が出場し、ポンプ車操法の部において、第7分団が3位入賞と優秀な成績を収めました。

忙しい中仕事を終えてから、毎晩一生懸命訓練に取り組んでいた皆様に、本当にお疲れさまでした。



かつらぎ町消防団ポンプ操法壮行会

救急車同乗研修

平成26年度も、紀北分院の職員6名(看護師・医療技師等医療従事者)の方々に、一日救急隊員として救急車に同乗していただきました。医療機関とのネットワークの充実、医療従事者とのコミュニケーションを深めることで、より一層住民サービスの向上に繋がると考えています。



平康 雄大さん



中野 容子さん



北川 智子さん



鈴木 沙知さん



伊藤 千春さん



野口 真希さん



職場体験

九度山中学校・高野口中学校・妙寺中学校
笠田中学校・笠田高等学校

伊都消防組合消防本部では、実際に消防署の仕事を経験する「職場体験」を行っています。消防訓練・救助訓練・救急訓練など、皆さん熱心に取り組んでいただきました。この体験で「命の大切さ」を感じ、また、人を思いやることの出来る立派な社会人になってほしいと思います。



笠田中学校



笠田高等学校



笠田高等学校



九度山中学校



高野口・妙寺中学校



高野口・妙寺中学校